



平成 28 年 10 月 12 日

各 位

会 社 名 アクサホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役 久岡 卓司
(J A S D A Q ・ コード 3 5 3 6)
問合せ先 取締役 細見 克行
(TEL. 06-6267-0090)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 8 月期（平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日）において、下記の通り特別損失を計上する見通しとなりましたので、お知らせいたします。

またこれに伴い、平成 28 年 10 月 12 日開催の取締役会において、平成 28 年 4 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

①のれんの減損損失（連結決算）

当社は、平成 28 年 3 月 1 日に当社の連結子会社であるアクサ株式会社（以下「アクサ」といいます。）および ACリアルエステイト株式会社（当時、株式会社雑貨屋ブルドッグ（以下「雑貨屋ブルドッグ」といいます。）。以下「ACリアルエステイト」といいます。）の共同株式移転（以下「本株式移転」といいます。）により設立いたしました。

本株式移転の企業結合会計におきましては、関連する会計基準等に従い、アクサを取得企業、雑貨屋ブルドッグを被取得企業とし、被取得企業である雑貨屋ブルドッグ株式の取得対価を市場価額（なお、雑貨屋ブルドッグの株式会社東京証券取引所が運営する JASDAQ（スタンダード）市場における最終取引日である平成 28 年 2 月 24 日の株式終値 236 円。）に基づいて算定し、当社グループ連結において雑貨屋ブルドッグ取得に伴うのれんを 2,753 百万円計上いたしております。

当社グループは、ACリアルエステイトにおける、あらゆる施策によるバリュエーションの検証を行い、会計監査人とも協議のうえ、回収可能額を慎重に検討した結果、減損損失として 2,690 百万円を計上する見込みであります。

②子会社株式の減損損失（個別決算）

当社は、上記①の ACリアルエステイトの回収可能額を慎重に検討した結果に基づき、個別貸借対照表に計上された同社子会社株式の減損処理を行い、減損損失として 1,807 百万円を計上する見込みであります。

なお、個別決算で計上した特別損失は連結決算では消去され、上記①に記載する特別損失が連結業績への影響額となります。

③固定資産の減損損失（連結決算）

収益性の低下に伴う投資の未回収分および土地等の資産価値の低下として、5 店舗並びに 1 事業部の保有資産 330 百万円を減損損失をとして計上する見込みであります。

④閉店損失（連結決算）

閉鎖店舗の契約に係る解約違約金又は違約金相当額等 25 百万円を閉店損失として計上する見込みであります。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 28 年 8 月期通期（平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日）の連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	14,281 百万円	156 百万円	66 百万円	647 百万円	25.41 円
今回修正予想 (B)	14,152 百万円	156 百万円	63 百万円	△2,434 百万円	△95.53 円
増減額 (B-A)	△129 百万円	—	△2 百万円	△3,081 百万円	
増減率 (%)	△0.9	—	△4.1	—	

(2) 業績予想の修正理由

上記 1. ①、③及び④の特別損失を計上すること等により親会社株主に帰属する当期純利益が減少する見込みであります。売上高につきましては、小売セグメントにて前年実績は上回りましたが、予算より若干下振れする見込みであります。経常利益につきましては、経常外費用が微増する見込みであります。これに伴い、売上高、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきまして、上記の通り修正いたします。

3. 今後の見通し

ACリアルエステイトにおきましては、のれんの資産性（超過収益力）は維持できない見通しであります。現時点で実施可能な合理化策は実施済みであり、今後の当社グループの連結業績に与える影響は僅少であります。今後同社の有する価値をグループの企業価値に最大限活用するよう、施策の検討を継続してまいります。

※本業績予想の修正につきましては、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以 上